

みらい通信

市民派・チームみらい
杉山元則 古川明美

事務所 鷺沼三ツ池町 2-1-5
電話 090-7953-5670
FAX 058-377-3751

令和3年度予算について本会議&委員会で聞きました！
浅野市長の提案「コロナ対応、堅守速攻型予算！」



なにを守るか なにを攻めるかが重要

今、守るものは新総合体育館建設(約70億円)ですか？

●環境対策

地球温暖化対策、食品ロスの少ない料理講座 62 万円。なんと年一回！ 20 組 40 人。



このイベント的事業で地球温暖化対策の意識は広がるのか？

環境問題 攻めてますか？ これで地球守れますか？

●人権教育 (ジェンダー指数先進国最下位の日本)
SDGs17の目標のひとつジェンダー平等に向けての事業は？
「性と生殖に関する健康と権利」ってなに？ この理解を深めることを市は目標に掲げてますが具体的な事業は？
2点を確認しましたが具体的な回答はなし。(決まっていない)

人権・多様性の理解、共生社会実現 守られていますか？

2期目のスタートです！
議会で働けることに感謝して、3月議会に挑みました。
課題を見据え議会ごと一般質問することを、2期目も目標に頑張ります！



日々の活動はブログ
「なないろ通信」
古川あけみ←検索



性犯罪・性暴力対策の強化を！



●質問:教員のわいせつ行為の事件が続いています。望まない妊娠、自殺防止のためにも性教育強化は待ったなしです。国が示す「生命の安全教育」(性教育)はいつから実施するのか。教職員の研修はどのように実施しているのか。
▲市の答弁:「性教育の手引き」は今年度中に完成。生命の安全教育は指導しながら、令和4年度から改訂内容で実施。わいせつ行為防止対策は、昨年7月以降、具体的な事案を想定し、被害者や加害者の心情、事案発生要因・対策をグループ交流し、わいせつ行為防止意識を高めています。

注目! 市立ならではの理想のかたち「日本一の特別支援学校を目指しませんか」と提案!



皆さんご存知ですか?令和7年度開校を目指し、250人が通える大きな特別支援学校が作られようとしています。

- ・こんなに大きな学校が本当に必要なのか?
- ・現在の高等部は残せないのか?
- ・今ある特別支援学級、「インクルーシブ教育」はどうなるのか?
- ・先生は100人以上、確保できるのか? 維持管理費は?
- ・スケジュールありきで進んでいないのか?

古川はソフト面、杉山議員はハード面を質問しました。しかし、どちらに対しても誠実に答えない市の答弁に不信感。後日、市職員に答弁について確認の電話をすると「その話はしたくない」と電話を切られました。議員の発言は市民の声でもありす。市と違う意見は受け付けられない姿勢は問題であり、議会軽視にも感じました。YouTube に編集しました。是非、一緒に考えて下さい。

※インクルーシブ教育 誰もが自分らしく生きることが尊重され、障がいのある者も障がいのない者も共に学ぶことができる環境の教育です。



教育の基本について考えるチャンス

この特別支援学校建設をきっかけに、市民の皆さんと共に考えるきっかけにしたいです。

特別支援学校は、障がいのある人だけのものではありません。共生社会とか多様性を学ぶことができる、学びの拠点となる各務原市ならではの特別支援学校を目指すべきです。

<古川の提案です!>

① 市民がつくる市の学校にする

今後のソフト面を考える委員は、岐阜県の真似ではなく「県ではできないことを市でやろう」という気概で挑む、人選に!

② 令和7年度開校までに共に学ぶ場をつくる

特別支援教育の専門家を一人市で雇い、担当者の育成・研修という狭い範囲ではなく、教育長指導の下「市内全学校、全教員が対象で「多様性の理解、共生社会の確立等について学ぶ」研修計画を作る。そして公教育そのものを変えるそれくらいの覚悟を持って、日本一を目指す。

③ 市のオリジナル 特徴を出す

地元の学校と特別支援学校と両方に籍を置く2重学籍を認める。専門的なことを学ぶ学校と、母体として日常過ごす地元の学校。どちらを主体とするかは障がいの程度や考え方などによって、それぞれで判断し選択する。市立の学校だからできること。

県下に誇る、特別支援教育を選択してきた各務原市。その素晴らしい発想を、今こそもう一度考え、市立だからできる工夫をする時です。